

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

- 特集1 第54回相生祭 … 2~5
- 特集2 地域連携活動 実施報告 … 6~7
- 特集3 海外研修報告 … 8
- 学園各部報告 … 9~10
- コラム … 11
- 同窓会だより / マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。

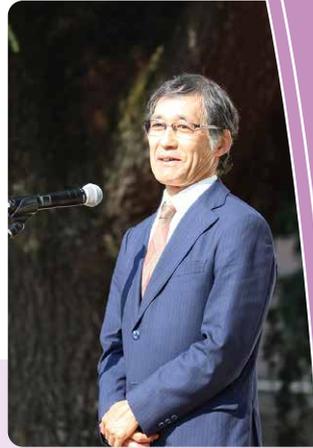


相模女子大学

SAWAMI NEWS

特集1

第54回相生祭



第54回相生祭が11月3日(金・祝)・4日(土)に開催され、2日間で延べ21,262名の方々にご来場いただきました。相生祭の開会を彩る市中パレードは1964(昭和39)年の相生祭以来、

学園をあげて行ってまいりましたが、昨今の交通事情に鑑みて、残念ながら今年で最後となりました。11月とは思えない暑さの中、演技・演奏をする児童・生徒・学生の姿に沿道からは温かな声援と共に大きな拍手が送られました。



相生祭実行委員会 委員長 大川原 志織



「コロナ禍により、対面での開催ができない年もありましたが、今年の相生祭も昨年同様、対面での開催となりました。対面での開催をすることができ、とても嬉しく思います。こうして無事に相生祭を開催することができたのは、関わってくださった皆様のご支援、ご協力のおかげです。」

「これまで準備とともに進めてきた実行委員、生徒や学生の皆さん、先生方や職員の方々、保護者の皆様や関係者各位、ご協力くださった皆様、心から感謝申し上げます。」

相生祭実行委員会は、相生祭をより良い形で開催できるように準備を進めてきました。時には、意見が食い違ったり、なかなかうまく事が進まないなどの苦労もありました。しかし、実行委員一同、たくさんの方に相生祭を楽しんでもらいたいという気持ちで、一人一人が真剣に取り組んできました。今年の相生祭の統一テーマは、「笑顔を咲かせよう! 幸せの花を学園に!」でした。相生祭にご協力くださった皆様のおかげで、多くの笑顔で溢れる相生祭にできたのではないかと思います。ありがとうございました。

大学祭実行委員会 委員長 池野 紹実



4月下旬、私は大学祭実行委員長となり、他の大学祭実行委員のメンバーに出会いました。初めての資料制作や説明会に戸惑うことがありました。何をすべきか、各局にどこまで踏み込んで報告や相談をしていくのか悩む時もありました。

大学祭説明会の運営は委員にとって初めての経験であり、当日の進行や必要な資料の作成ができないことがありました。自分達が十分な準備が出来なかったことで、多くの人に迷惑がかり、自分達の負担や仕事が増え大変になることを実感しました。この反省を生かし、以降、委員同士で声を掛け合い、説明会を実施することができるようになりました。

そして当日、学生や来場者の楽しそうな声が聞こえてくるたびに「今日まで頑張って相生祭の準備をしようと思った」と思うことができました。そう思えたのも、委員の皆がいたからこそであり、当日自分たちで仕事を見つけ、考え行動することができたと思います。

そして、沢山の方々の協力があったからこそ相生祭を盛り上げることが出来たと思います。

〈大学・短期大学部〉



大学・短期大学部では、クラブやゼミナール、学科などの団体が模擬店・展示・パフォーマンスを行い、たくさんの方に足を運んでいただきました。真夏に近い気温の中、大学グラウンドのメインステージでは吹奏楽部や舞踏研究部、ダンスクラブ「EASTER」、アイドルダンスクラブが練習の成果を披露しました。

また、2023交通安全企画画として生活デザイン学科による「交通安全ファッションショー」協力・交通安全未来創造ラボ（日産自動車株式会社）やキッズから大学生までが集まったチアリーディングクラブ「GRAMPUS」の演技がステージを盛り上げていました。（総務課担当）



第15回 地域物産展



地域物産展
地域から日本の『食』を届けよう

地域との交流事業や体験学習、地元の農産物を使った商品開発などを通して、本学の地域連携の輪が日本各地へと広がっています。

相生祭で開催される「地域物産展」は、食を通して地域の活性化をめざすイベントとして15回目の開催を迎えることができました。昨年の約2倍となる15の地域や企業にご参加いただき、農産物や海産物、スイーツなど、各地域の魅力ある特産品を来場された皆様へお届けすることができました。また、大学の歴史を地域の方々へ知っていただくイベントとして、「サガジョ歴史ツアー」を昨年引き続き実施しました。

〈中学部〉
中学最後の相生祭

今回の相生祭で60年間続いた市中パレードが最後でした。私は市中パレードに中学の部旗持ちとして参加しましたが、最後だと思うと悲しかったんです。ですが市中パレードが終わって何か他の形に変わっても今まで受け継がれてきた思いは変わらないと思うし、これからもその思いは受け継がれていって欲しいと思います。そして私達中三学年にとっても今回の相生祭は中学最後の相生祭でした。私達は12月に修学旅行で沖縄へ行くので、沖縄をテーマに外装、学習展示、ワークショップを行いました。学習展示では社会の授業で学んだ太平洋戦争についてや沖縄の文化、食事などについてを展示し、外装ではアメリカンビレッジを意識したアメリカ風の外装を作りました。また、ワークショップでは人間によって廃棄されたガラスゴミをアートとして生まれ変わらせるシークラスアートを行いました。ワークショップの内装では美術部が制作したアップサイクルジンベイザメを飾るなど、環境に配慮した相生祭になりました。学年の人達と同じ時間を共有し協力して作りあげた中学最後の相生祭は、私にとって大切な思い出になりました。

（相生祭委員会 委員長 中学部 佐々木莉紗）



シークラスアートも大人気



釣りゲームの釣竿もお手製です！



食販はどこも長蛇の列でした



ここに辿り着くまで大変でした

〈高等部〉
私にとつての挑戦

高校生活3年間で自分の足跡を残したい。そのため3年間で何か特別な思い出になることをしよう。という想いで運営委員に立候補しました。

元々、私は人前に立つて指示を出したり、話をするのが得意ではなかったため、運営委員として動き出した当初はわからないこと、不安なことだらけでした。しかし、経験を重ねていく中で次第に自信が持てるようになりました。

4月から準備を進めていく中で、それまで関わりのなかった1年生の運営委員とも次第に協力することができるようになり、最終的にはみんなで団結し、無事2日間を終えることができました。1年生の時にはただクラスで参加しただけの相生祭でしたが、先生方や運営委員・実行委員の人たちと作り上げた相生祭は、とても達成感がありました。

次年度は受験生となり、相生祭に直接関わることは出来ませんが、今年の経験を活かした後輩たちにはよりよい相生祭を作り上げてもらいたいと思います。相生祭に協力して下さった皆さん、来場者の方々、本当にありがとうございました。

（相生祭運営委員会委員長 高等部 平方陽南子）



正門看板は、中高美術部が作成！

〈小学部〉 子どもたち一人ひとりが輝く相生祭

4年ぶりに新型コロナウイルスの制限がない形で開催された相生祭。小学部では、3日の午前中に鼓笛パレードとグランドドリル、4日には小学部において劇と合唱の発表を行いました。

1日目の「鼓笛発表」は、小学部の子どもたちにとりて大きな晴れ舞台の一つです。特に6年生にとっては、5年生の3学期から、毎週火曜日と木曜日の朝練習に生懸命励んできた成果を発揮する場でもあります。6年生が各自担当するパートは、指揮、大太鼓、シンバル、小太鼓、中太鼓、ベルリラ、マーチングキーボード、トランペット、トロンボーン、バトンです。それぞれのパートが一つになって奏でる音が、下級生の演奏をリードします。

年生による合唱の発表を行いました。劇の発表では、各クラスの個性が発揮されたものとなりました。衣装や小道具を自分たちで考えたり、台本のない台詞を使ってアドリブを取り入れたりするなど、自分たちのクラスの劇に誇りと自信をもって演じきっていました。音楽発表では、2年生が「8匹のねこ」、4年生が「ともだちはいいもんだ」「CHITTY CHITTY BANG BANG」の発表を行いました。歌だけではなく、ダンスや打楽器を取り入れての合唱は、子どもたちのエネルギーに満ちあふれた素晴らしい発表となりました。そして相生祭発表会の最後を締めくくるのは6年生の合唱「地球星歌」「君と明日へ」です。「君と明日へ」は子どもたちが考えたオリジナルソングで、楽しかったこと、大変だったこと、仲良くあそんだことなど6年間を思い出し、心に残っていることを歌詞として表現した作品です。小学部での様々な経験が、子どもたちにとりて大きな宝物になっているのだと感じる合唱でした。劇、合唱とも、発表が終わると保護者の皆様の大きな拍手をいただきました。小学部の子どもたちのがんばりが光り輝く2日間となりました。

今年度は、小学部の伝統となっていた「市中パレード」をこれまでの形で行う最後の年となりました。小学部の子どもたちにとりて、このような特別な舞台で演奏できてきたことは、かけがえのない体験です。これまで地域の方々の支えがあって市中パレード

最後になりましたが、PTAの活動として、模擬店やバザーの実施をしていただいたり、パレードの警備をしていただいたりや保護者の皆様に子どもたちの活動を支えていただきました。この誌面をもちまして御礼申し上げます。(荒井)

を続けてこられたことに感謝しております。来年度は、新しい形でのパレードをお見せすることになります。市中パレードの後には、全校児童によるグランドドリル演奏があり、美しい隊形移動と6年生のパフォーマンスで大いに相生祭を盛り上げてくれました。



1年生 劇



2年生 合唱



3年生 劇



4年生 合唱



5年生 劇



グランドドリル



市中パレード

〈認定こども園 幼稚部〉 ドキドキがいつぱいの相生祭

昨年度に引き続き、開会式には年長組が参加しました。入場前、大学グラウンドにたくさんのお客さんが見に来ているのを見ると「ドキドキする…」と緊張している様子も見られましたが、家族や保育者の顔を見ると安心して自然に笑顔になっていました。入場行進が始まると、気持ち引き締まり堂々と腕を大きく振りながら歩く姿はとても素敵でした。

幼稚部は4年ぶりの参加となるグランドドリルでは、3〜5歳児クラスの子たちだけでディズニータンパレードを行いました。入場の時に保育者が「いくよー」と声を掛けると、年長組の子たちが大きな声で「おー」と元気いっぱい走る姿がありました。ディズニータンパレードの曲が流れると、友だちや家族、保育者と目が合い、笑い合いながら楽しそうに音楽に合わせて身体を動かしていました。年少組と年中組は保護者との自由参加だったので、子どもたちも嬉しそうに手を繋ぎながら親子での時間を思い切り楽しんでいました。



暑さに負けず大きな声で、相生祭の歌をうたう子どもたち



ディズニータンパレードを楽しみながら踊っていました

特集2

地域連携活動 実施報告

学生たちの活動のフィールドは、
神奈川県相模原市を拠点として日本全国に広がっています！

〔相模原女子大学×相模原市〕
相模原市主催の
防災訓練に参加しました

9月1日(金)相模大野駅にて実施された「第44回九都県市合同防災訓練(兼令和5年度相模原市総合防災訓練「帰宅困難者対策訓練」)に、学生16名が駅で滞留したことを想定し、誘導される役割として関わりました。本訓練は大規模地震の際の駅や駅周辺、道路などの混乱により発生する帰宅困難者の対策として実施されました。

事前体験として、8月3日(木)に相模原市及び相模原市南消防署協力のもと、学内で事前体験学習を実施しました。水消火器による初期消火訓練や起震車による震度体験、煙体験ハウスでの煙体験を通して、学生は訓練参加前の準備として防災に関する意識を高めました。

学生は、本訓練への参加や学内での事前体験学習を通して、自身及び見学している方々の防災意識の向上を図りました。

本取組みに対して、相模原市長からの感謝状をいただきました。



起震車による震度体験



当日の様子

〔丸山千枚田魅力発信プロジェクト〕
三重県熊野市を訪問しました

丸山千枚田魅力発信プロジェクトメンバー6名と公募生22名が三重県熊野市を訪問しました。当プロジェクトは、三重県熊野市と連携し、日本を代表する棚田「丸山千枚田」や熊野市の特産物・特産品の魅力を発信する活動を行っています。公募生は9月8日(金)～10日(日)の3日間、プロジェクトメンバーは9月8日(金)～14日(木)の7日間滞在し、稲刈り作業を行いました。5月に私たちが植えた苗はすっかり黄金色に染まり、棚田がとても綺麗でした。

「丸山千枚田を守る会」の皆さまから稲の刈り方や束ね方などを丁寧に教えていただきました。日中はとても気温が高かったため、水分補給をしっかりと行いながら作業に取り組みました。

初日の勉強会では熊野産唐辛子を使ったレシピコン



稲刈り作業の様子1



稲刈り作業の様子2



ディスカッション



プロジェクトメンバー

テストに向け、グループディスカッションを行い、新たなレシピを検討しました。

公募生は、最終日の9月10日(日)に「鉱山資料館」「獅子岩」「花の窟神社」「鬼ヶ城センター」を訪問し、熊野市の歴史や文化、特産品などについて学びました。

9月10日(日)からは、プロジェクトメンバーのみのインターンシップとして、稲刈りや脱穀作業を行いました。雨が続いたため、稲刈り作業を中断することになってしまいましたが、米袋にシールを貼る作業を行いました。

休憩時間には保存会の方々と一緒に食事をしたり、お話をするなど交流を深めることができました。今回の訪問で過ごした時間は、インターンシップという活動を超えて、地域コミュニティの結びつきを感じる機会となりました。お話をすることで、保存会の方々の経験や価値観に触れ、新しい視点を得ることができました。今回の活動で得た経験や視点を今後のプロジェクト活動に活かしていきたいと思えます。

【産学連携】 「翠想」が完成し販売されました

●梅の収穫

本学で収穫した梅を使ってつくられるオリジナルの梅酒造りは、今年で9年目となります。

梅の実は「翠」と、本学で学ぶ学生たちの「想い」を込めて「翠想(すいそう)」と名付けられ、例年、梅の収穫から、仕込み、ラベルのデザイン、ラベルの貼付けまで、それぞれの製造工程に学生が携わってきました。

5月下旬、学生約90名と教職員に加えて、当活動を通して本学の産学連携や特色を体験し感じてもらうことを目的に、高校生およびその保護者32名を交えて収穫作業を行いました。高校生・大学生・教職員が収穫という同じ目的に向かい力を合わせて、楽しみながら和気あいあいと収穫に臨みました。



梅の実収穫の様子

●梅の実は仕込み作業

5月29日(月)、相模原市内の久保田酒造株式会社にて梅酒「翠想」の仕込み作業を行いました。本活動には、日本語日本文学科1名、メディア情報学科2名、社会マネジメント学科4名、人間心理学科1名、食物栄養学科1名の計9名の学生が参加し、梅の実は洗う作業、ヘタを取る作業、漬け込み作業、それぞれの工程にわかれて作業を行いました。

普段の学生生活では、めったに経験できない酒造体験に、学生同士協力しながら楽しく活動している様子で

した。仕込み作業が終わった後は、津久井地域の農産物などを販売している神奈川つくい農業協同組合(JAつくい)の直売所「あぐりんずつくい」を見学し、本学が所在する相模原地域について理解を深めました。

学生たちは、JA神奈川つくい管内の生産者が新鮮な野菜等を提供し、地元で採れた野菜を地元で食す、「地産地消」に係る説明に熱心に聞き入っていました。



仕込み作業の様子

●試飲販売会

9月23日(土)、公益社団法人相模原市観光協会が運営する、さがみはらアンテナショップ「sagamix」にて完成した梅酒「翠想」の試飲販売会が開催されました。当日はラベルデザイン製作を含む「翠想」づくりに関わった学生7名が参加しました。

学生たちは、「翠想」づくりの工程やラベルデザインに関する説明など、お客さまと積極的にコミュニケーションを取り、商品の魅力を伝えました。



今年の翠想



販売の様子

*飲酒運転及び未成年者の飲酒は法律で禁止されています

【海外に子ども用車椅子を届けよう！プロジェクト】 「第17回相模大野もんじえ祭り」に参加しました

8月26日(土)・27日(日)に、大野もんじえ祭り実行委員会が主催する「第17回相模大野もんじえ祭り」に、本学の「海外に子ども用車椅子を届けよう！プロジェクト」のプロジェクトメンバーが参加しました。

本イベントは、地元相模大野の音楽と食のフェスで、近隣のレストランなどが自慢のメニューで腕を競って商品を販売するなど毎回数万人規模の来場者がある地元最大イベントです。コロナ禍の影響で4年ぶりの開催となり初日開始の14時から多くの来場者があり、午後6時にはどのお店も長蛇の列となる賑わいとなりました。

プロジェクトの学生も4年ぶりの参加で先輩学生からの引継ぎが出来なかったにも関わらず、しっかりと準備から販売までスムーズに運営し、「日光の天然のかき水」「ブラジルソーセージ」「生ビール」を販売しました。かき水のシロップは、前日、学生が手作りし、「イチゴ」「マングロー」「ブルーベリー」の水は初日で完売しました。ブラジルソーセージも用意した1200本は、プロが運営するお店と負けない接客サービスで、2日目の午後6時に完売するという人気ぶりでした。お客様の中には「相模女子大学のOGです。毎年買いに来て応援しています」という声も聞いて頂きました。

半年前から準備を進めた学生たちには、このイベントを通して、企画力、コミュニケーション力、実践力など様々な力をつける絶好の機会になりました。イベントで得た収益は、すべてプロジェクトの活動費に充てられます。



当日の様子



プロジェクトメンバー

特集3 海外研修報告

【中等部】オーストラリア・カナダ海外研修

コロナ禍で実施できなかった海外研修が4年ぶりに再開しました。オーストラリア・パース研修に20名、カナダ・バンクーバー研修に6名、カナダ・ビクトリア研修に10名が参加しました。生徒たちの声を紹介します。

ビクトリア研修は毎日がとても充実していました。以前は会話の中で分からないことがあっても笑顔で聞き流してしまうことがあったけれど、その日の出来事を毎日ホストマザーに伝えることができ、英語を使う勇氣を持つことができました。バスを降りる時に全員が「Thank you」と言ってお降りっていく光景がとても素敵！自然が豊かで、「Thank you」が溢れる優しい街での英語研修、とても有意義な2週間でした。

（中等部 逢坂彩良）

今回のバンクーバー研修は私にとって初めての留学でした。最初は、生活に慣れない、英語で上手く伝えられず悔しい、英語力の高い人ばかりで辛い…でもそれが全て上書きされるくらい良い経験をしました。異文化交流の中で日本では経験出来ないような新しい事はやはり「留学して良かった！」と心躍る毎日でした。

留学は英語が出来る出来ないに関係なく、大事なものはそこで何をしたらか。留学はそこで経験する全てを楽しみ、笑ったもの勝ちです。

（高等部 鈴木梨央）

パースに到着すると、ホストファミリーが「Welcome to Perth」とウェルカムボードを持って出迎えてくれました。とても印象に残っています。現地校の生徒ともたくさん交流し、休日はファミリーと過ごしました。「ずっとここにいたい」と思うほどファミリーと過ごす時間は楽しく、毎日充実していました。日本語が通じない環境で英語でコミュニケーションをとるスキルが身につきました。今回の研修での素敵な経験や習得したスキルを、今後

の英語学習に役立てていきます。ぜひまた来年も海外研修に参加したいです。

（中学部 佐藤里核）

言葉も文化も違う国での2週間、異文化を肌で感じ、参加生徒1人1人がきつとたくさんさんのことを感じ、考え、たくましく成長したことを思います。この貴重な経験を今後に生かしていつてほしいと思います。12月にはセブ島語学研修、1月よりニュージーランド・ターム留学が控えています。様々な文化や価値観に触れることで幅広い視野を身につける機会となることを期待しています。

（海外研修担当 眞鍋）



Australia



Victoria



Vancouver

【小学部 5、6年生】オーストラリアホームステイ体験

7月26日から8月3日まで、5、6年生の希望者13名がオーストラリアホームステイに参加しました。海外に行くことが初めてだという子が多い中、親元を離れ、言葉も文化も違う国で過ごすことは子どもたちにとって大きな挑戦となりました。



オーストラリアのビーチにて



PSSSの子どもたちと笑顔でポーズ



お世話になったホストファミリーのみなさんと

交流先の小学校、PSSSでは、日本語の授業も行われています。現地の子どもたちは日本への興味も深く、到着を楽しみにしてくれていて、とても温かく迎えてもらいました。PSSSの子どもたちの「こんにちは！」という声に、緊張していた子どもたちも思わず笑顔に。挨拶は心を繋ぐのだということを実感しました。

期間中は、約1週間をホストファミリーの元で過ごしました。言葉の壁がありながらも、本物の家族のように接して下さるホストファミリーの温かさに触れ、そして何よりバディの子とは、海を越えての友情を築くことができました。お別れの日には涙が止まらない子もいました。

日本とは違う自然や、文化に触れながら、慣れない英語を一生懸命に使って過ごした9日間。日本では体験できない貴重な経験をすると同時に、他国の文化を理解することの大切さや、改めて日本の文化の良さ、家族の温かさを学ぶことができました。

（徳本）

学園各部 報告

学園

エフエムさがみとの協定

9月20日(水)、本学と株式会社エフエムさがみは災害時における情報提供について協定を締結しました。

相模女子大学幼稚部×神奈川県新聞(ナムス)×エフエムさがみによる災害時の連携企画で、災害時に本学の幼稚部や小学部など園児らの安否状況や引き取り方法などをラジオで放送するものです。

災害時にラジオと提携していることを思い出せるよう、園児の歌声を放送し、その出演状況を思い出としてCDにし園児に配付しました。

災害時の情報提供を地域や保護者に伝えるとともに、ラジオから流れる子どもたちの歌声で地域に元気を届けます。

締結式終了後に風間理事長へのインタビューラジオ収録があり、10月にエフエムさがみで放送されました。

この企画を幼稚部から学園全体へ広げ、さらに学園の防災に関する意識を高めてまいります。



風間理事長とエフエムさがみ 平岩夏木 代表

防災備蓄品の寄付

本学では大規模災害に備えて、大学の学生・教職員に提供する防災備蓄品を保管し、一定期間での入れ替えを実施しています。本年度はそのうちの一部の更新期限到来に伴い、6月と9月に相模原市内のこども食堂など食品を必要としている団体へ食育支援等を行っている社会福祉法人相模原市社会福祉協議会に、寄付を行いました。1回目は6月20日にカンパン、氷砂糖各3,000食を、2回目は9月11日に玄米梅がゆ、玄米小豆がゆおよびごぼうと鶏肉のしょうが煮各2,000食分を、相模原市社会福祉協議会のある相模原市立あじさい会館に搬入して贈呈式を行いました。第2回には風間理事長が出席し、相模原市社会福祉協議会の笹野会長に目録を手渡しました(写真)。1回目、2回目とも寄付をした食品は、相模原市社会福祉協議会を通じて、食品を必要とする市内の多くの団体に配布されました。また2回目に寄付したものと同じ食品各1,000食は、10月2日から4日間本学学生・教職員等に自由配付を行いました。本学は今後も協議会と連携して地域の食育支援とフードロス削減に配慮した取り組みを進めてまいります。



贈呈式の様子

大学院・大学・短期大学部

朝ドラ「らんまん」で石版印刷指導を行いました

2023年度上半期のNHK朝の連続テレビ小説「らんまん」で、石版印刷に関する専門的助言、アイデア提供、台本考証、出演者への石版技術指導、収録とリハーサルへの立ち合いなどの業務を行いました。

前年の10月から練馬と高知の植物園訪問や資料などの調査、準備をはじめ、石版印刷に関する助言やアイデア、エピソードを提供し、それが台詞や設定、動きに反映されていきました。撮影前に、役者の方々が拙宅のスタジオに連れられ、まず石版印刷の仕組みを理解していただきました。動きの練習を重ね、撮影ではスムーズに職人らしい動きや台詞となりました。

また、演出や美術スタッフの方々も質問や相談に度々お越しいただき、まるで拙宅版画スタジオが活気ある部屋のような賑わいになりました。制作の方々は、石版印刷シーンのリアルな再現に細部まで拘っているところが印象に残っています。

撮影では、全方位に作り込まれた完成度の高い明治初期の「石版印刷所」のセットの中で、アンティークと言え石版印刷機を実際に用い、昼休憩時に筆者自身も撮影準備をした際は、140年前にタイムスリップしたような錯覚を覚えました。因みに、撮影用の石版印刷に関する小物として、描画時に腕を置く腕鎮や、震災のシーンの石版石の欠片などの制作や、石版石上の植物画の転写・製版なども行いました。石版印刷・石版画というと、どうし

ても石を彫って刷る凸版のように思われる方が多いのが現状です。身の回りの新聞のカラーページや雑誌など石版印刷が原型である「オフセット印刷」で刷られているにも拘わらず、この印刷の仕組みはなかなか知られておりませんでした。

今回は、全国放送でこの「水と油が弾き合うことで、油性インクが平らな版面に付く」という仕組みの石版印刷が映像化され、台詞で技法が説明されることは稀有なことでした。放送時に研究分野である「石版印刷」が一時トレンドワードになるなど、一般にも本技法のご理解を得られるまたとない機会になりました。

(詳しくは、NHKドラマ・ガイド 連続テレビ小説「らんまん」パート2のp.62-63「石版印刷編」に特集されています。)

(子ども教育学科・稲田大祐)



NHK ドラマ・ガイド パート2

就職特訓講座・公務員ガイダンス等を実施しました

就職支援課では、大学3年生および短期大学部1年生を対象に「就職特訓講座」「企業研究会」等を実施しました。就職特訓講座の「基礎編」では、就職活動に必要な自己PR等について、「実践編」では、グループディスカッションを行い、評価ポイントの理解や自己評価について学びました。就職準備講座の企業研究会では、オンラインで6回にわたって開催し、合計60社の企業

にご参加いただきました。会社概要や事業内容、選考情報等についてご説明いただき、多くの学生が参加しました。2月には対面での「企業研究会」の実施を予定しています。

また、公務員志望の学生を対象に、公務員ガイダンスや試験対策講座、模擬テストを実施し、実際の公務員試験の内容や必要な勉強など、公務員を目指す学生をサポートしています。

12月には、拓殖大学にて、12校の大学が参加する「複数大学合同面接練習会」が行われました。企業の人事採用者を講師として、他大学の学生と一緒に、本番さながらの集団面接を経験するなど、実践的な練習会が行われました。

就職活動を続けている大学4年生および短期大学部2年生を対象に「リスタート講座」「合同企業説明会」等を開催しています。学生一人ひとりに寄り添った丁寧な支援を引き続き行っていきます。



リスタート講座では多くの求人を紹介



就職特訓講座の様子

中学部・高等部

集団の中で自分の行動を見直し他者意識を高めること・人として成長するための「気付き」の機会を得ることを目的とした活動を行いました。

クラスを越境することも、自分の壁を越境することもできたと思います。自分の偏

見やうわざで「この人ちょっと苦手かも」って思っていた人もいるけど、ちゃんと接してみたら意外なところもあっていい感じの雰囲気を作ることができました。また、ミッションでできないかも」って最初から思うのではなく「どうすればできるようになるか」を考えて挑戦することができました。完全にできなかったとしても「自分たちならここまではできる」とポジティブになることもできました。

ミュージカル「アナスタシア」を見て

この物語は歴史上の謎である「アナスタシア伝説」に基づいています。私はこの伝説や歴史背景について全く知りませんでした。

だが、リアルで迫力のある舞台セットや、役者の方々の渾身の演技によって、20世紀のロシアにタイムスリップしてしまったと思うほど、物語に没頭することができました。時にはきらびやかなバレエシーンがあり、時にはジャズテイストな場面があるなど、場面の切り替わりによって年代の移



アナスタシアの世界へ

(中学部 0さん)



与えられた課題を考えよう



自分の気持ちを共有しよう



「越境」について考えよう

り変わりを感ぜられることも魅力的で、目を奪われ続けた2時間40分でした。

(高等部 市野帆香)

小学部

2年生「つなぐ手」で日本舞踊 隈取り

小学部の独自の教科「つなぐ手」では「日本の伝統文化にふれる」ということで、2年生では歌舞伎役者の立花實山先生、車扇先生を講師にお招きして日本舞踊の授業を行っています。今回2年生では、歌舞伎の「菅原伝授手習鑑」に登場する松王丸、梅王丸、桜丸の隈取りを体験しました。ヒーローは赤い線、悪役は青い線で筋を描くようです。3人それぞれに違う化粧を施すと、「暴れん坊」「利かん坊」「優しい末っ子」という性格が見えてきました。見ている子どもたちも、先生がしてくださる隈取りを見て、プリントに隈取りの絵を描きました。それぞれの特徴を上手に捉え、模写することができました。

次に歌舞伎の「立廻り」を教えていただきました。新聞紙で手作りオリジナル刀を作成し、気合いを入れて挑みました。「大上段」「山型」「天地天」「空白」など決まった型の動き方を教わりました。自主練習の間には、先生の動きをまねて一人一人が集中して技の練習を行い、グループ発表では友だちの動きをしっかり見て、上手なところをどんどん吸収していました。子どもたちに



先生に隈取りをしていただき、布にうつしとります



先生の話をよく聞いて隈取りスケッチに挑戦しました

とっては本物の日本文化にふれることができた貴重な学びとなりました。(玉宮)



松王丸、梅王丸、桜丸に変身しました

認定こども園 幼稚部

祖父母ふれあいデー

幼稚部では4年ぶりに「祖父母ふれあいデー」が開催されました。祖父母ふれあいデーとは幼稚部独自の教育・保育プログラムである「幼稚部つなぐ手」の一環として、幼児クラスの祖父母の方にご来園いただき、子どもたちが異世代の方々との交流から人との繋がりの温かさ、伝承遊びの楽しさなどを体感する活動です。

9月13日には82名のたくさんの祖父母の方々に来園に、嬉しそうに微笑む園児の姿が見られました。祖父母の方にこまの回し方を教えてもらい、繰り返し挑戦することでコツをつかみ自分で回すことができるようになった園児もいました。こまを回せるようになったことを嬉しそうに担任に報告する姿が微笑ましかったです。また、けん玉やお手玉も楽しみ、伝承遊びに触れる良い機会にもなりました。園庭では、縄跳びを回してもらったり、竹馬、ボール遊び、虫とりなど様々な遊びを祖父母の方と楽しむ姿がありました。子どもたちにとって、普段関わっていない保育者や友だちはひと味違う関わりを体験することが出来たすてきな時間となりました。(杉山)



「見ててね」と嬉しそうに竹馬を披露する姿がありました

125th Anniversary since 1900

相生祭の歴史

1946(昭和21)年に帝国女子専門学校「復興祭」として始まった本学の学園祭は、1969(昭和44)年から「相生祭」の名称となりました。幼稚部から大学・大学院までが一堂に会して学園祭を開催している事例は全国的にも珍しく、本学園の特徴の一つでもあります。今回は相生祭の歴史について振り返ってみましょう。

本学の前身である帝国女子専門学校は、1945(昭和20)年4月、現在の文京区大塚にあった校舎や学寮のすべてを戦災によって焼失し、他校の間借や仮校舎への移転を3度も繰り返した後、1946(昭和21)年3月末から4月上旬にかけて、相模原の地に移転してきました。移転してきた旧陸軍通信学校の施設は荒れ果てており、食料も乏しい状況でしたが、学生たちは学校の復興を示すための文化祭として、その年の11月1日から3日まで「復興祭」を開催しました。

1949(昭和24)年には本学園の念願であった大学設立を果たし、高松宮殿下夫妻のご臨席を賜り、相模女子大学としての初の「大学祭」を盛大に開催しました。戦後の厳しい状況の中での「大学祭」開催でしたが、町内会が駅前広場に「祝 相模女子大学祭」のアーチを掲げるなど、地域の方々からとても歓迎されました。

その後、名称が「大学祭」から「学園祭」へ、1969(昭和44)年には「相生祭」へと変更になりました。当時のパンフレットには「相生とは個々の人間が助け合い、愛し合いながら生きていくことであります」と書かれており、「相生祭」と名付けられた理由が記されています。そして記念すべき相生祭のスタートに当たり、相生祭の歌「希望めぎして」が作られました。この歌の詩は公募した詩の中から選ばれ、当時の小学部児童武藤八重子さん作詩、作曲は当時の中学部教諭小松田茂さんで、今でも相生祭の開会時に全員で斉唱し、歌い継がれています。

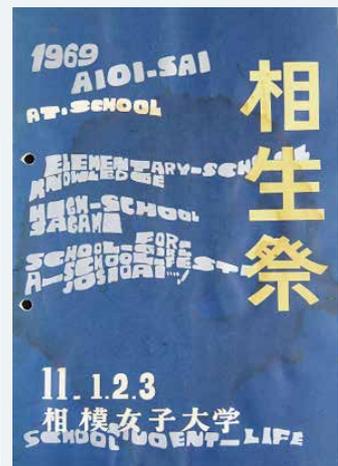
(アーカイブ室設置準備室)



帝国女子専門学校復興祭



1949(昭和24)年大学祭パンフレット



第1回相生祭パンフレット

参考文献：「校舎は焼けても、学校は焼けないー相模女子大学の110年ー」



英語と私

阪下裕子

(昭和47年学芸学部英米文学科卒業)



私は9歳からここ相模大野に住んでいて、相模女子大学では中等部から10年通いました。

最初に英語に触れたのは10歳の時で、近所にたまたま住んでいた日系アメリカ人の先生の手で英会話を習い始めました。先生はアメリカの実生活を英語で教え、アメリカ人の子供たちと交流する機会を多く作って下さいました。その結果、私は自然に彼らに興味を持ち、海外へと心が広がっていったのです。あの頃は手紙の時代で、海外のペンパル達と手紙やプレゼントを交換することが流行っていました。私もカナダとスウェーデン、のちにアメリカ人達ともペンパルになり、その後約10年ほどペンパル交際が続きました。

こういった周りの影響を受け、将来はアメリカがカナダに渡り勉強や仕事をしたいという夢が膨らんでいったのです。いつの間にか「私は世界人・グローバルな人間になろう!」というゴール、目的を持つようになりました。

「人間は顔形や言葉は違って心は一緒」と、今でも信じています。

私は1972年に相模女子大学英米文学科を卒業とほぼ同時に、3年の交際を経てアメリカ人の夫と結婚して渡米しました。やさし

い義父は、毎日仕事から帰って来た後、私の為に車の運転練習をしてくれました。ちょっと厳しい義母からは、スーパーでの買い物の仕方からお料理・掃除・洗濯までアメリカ式花嫁修行をびしびしされ、毎晩、童話本をもとに徹底的に発音練習もしてくれました。私はスポンジのように全てを吸収してアメリカ生活に浸っていったのです。

現在はアメリカ カリフォルニア州サンフランシスコ郊外でアメリカ人の夫と2匹の犬と一緒に住んでおります。今年は私が渡米してから、ちょうど50年経った記念すべき年でもあります。アメリカでは今はもう無くなってしまったパンナム、またCitiBankで10年働いた後、日英バイリンガルのリクルーティングの仕事で25年近くしました。これはアメリカ国内で日英バイリンガルの人材を紹介するというビジネスです。この仕事は私に合っていて、最後の10年は独立してJEMI, Inc. という会社を立ち上げ、2016年にリタイアするまで子育てしながら働きました。

この50年間というもの、沢山の人々に支えられてこそ、今の私があると思います。スマートフォンもコンピューターもない時代に、私を信じて未知のアメリカに暖かく送ってくれ、サポートしてくれた両親にはほんとに感謝しております。

ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。
マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和5年3月末現在	令和5年9月末現在
マーガレット募金額	64,811,204 円	67,348,778 円

マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。

用途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

募金内容

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

お申込方法
(個人の場合)

- ①お振込(郵便局または銀行窓口)
- ②郵送(現金書留)またはご持参送
- ③自動振替での継続

④インターネットから申込の場合

クレジットカード決済となります。
ホームページ上の入力フォームに
必要事項を入力の上、ご送信ください。

インターネット▶
申込入力フォーム



詳細につきましては、大学ホームページ (<https://www.sagami-wu.ac.jp/>) をご覧いただくか、下記事務局までお問い合わせください。

- マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9173 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp
- その他奨学金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916